

戦争を知る2

このレポートは民主党が政権を獲得した翌年に書いたものです。

2016(平成28)年に補足を加えて書き直し

セポイの乱 1857年

この教訓は今に生きる。

インド傭兵部隊の反乱で有名なセポイの乱。

当時英国の植民地であったインドのデリーの北60 Km のミラートで起きた。

英軍を撃破した傭兵部隊は、セポイに呼応した民衆が城門を開けデリーに入城する。

皇帝復権を宣言して対イギリス戦争開始を表明。

英国(東インド会社)の植民地政策への不満を爆発させたインド人は階層を越えて各地で一斉に隆起し英軍を撃破する。

しかし、この隆起は英軍を一掃する直前で失敗する。

わずか4ヶ月であった。

インドが独立を勝ち取るにはマハトマ・ガンジーの出現まで待たねばならなかった。

これが歴史である。

有能な指揮官の不在と意思を持たない組織はまとまりを欠き自壊せざる得なかった。

「英軍を一掃した後、誰がこの広大なインドを統治するのだ」、「どのような国家を創るのだ」

反乱軍は銃を置かざる得なかった。

セポイの乱の直接の原因は「雇用改定」と「薬方事件」である。

理由などどうでも良い不満へのはけ口でしかなかった大衆迎合的革命のようなものは頓挫する運命にあった。

「アラブの春」、自民から政権交代をした「民主党」の顛末を見てセポイの乱を思い出し、書いたレポートがこれ。

古代ギリシャ ツキディウス提督(Thucydides)

紀元前 404年

戦争は目に見えない些細な事から湧き上がる

2016(平成28)年1月に再投稿

記 石栗 康春

pals solutions